

特別支援教育推進通信

個別の配慮を必要とする子への支援(その6)

今回は、前回の事例Cさんへの支援の続きです。学校では、3月に入り、年度末に向けて慌ただしい時期になります。この時期の予定は、通常とは異なることが多くなります。児童生徒によっては、この変化に戸惑いを感じてしまい、安心して生活を送ることが難しくなることもあります。

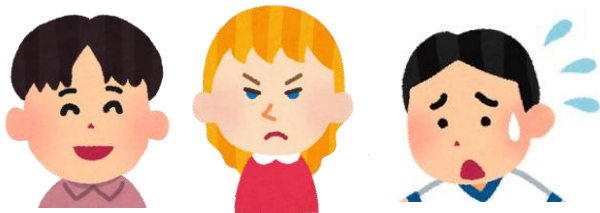
児童生徒に関わっている大人たちが、これまで行ってきた支援を共通理解しながら、同じ対応を続けていくことで、本人にとって安心した環境を作ることができ、充実した生活につながります。そして、こうした取組が本人の成功体験につながり、自己肯定感が高まります。

一人一人が輝くための支援

その3-1

「表情カード」を使って、相手がどのような気持ちなのかを学びます。

相手の表情のどの部分に注目すると、相手の気持ちが分かりやすいのかを確認します。



相手の目や口元に注目してみよう!

Point

具体的な場面で、相手の言葉と合わせて表情カードを使用することで更に効果的!

その3-2

様々な場面の発問を教師から聴いて、ペープサートの中から、ふさわしい表情を選びます。

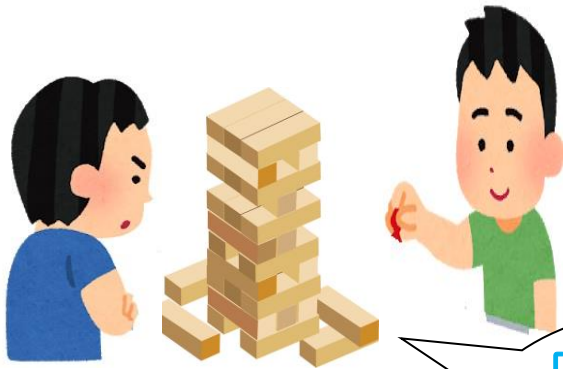
そうすることで、全体像をつかむ力を育てます。



〇〇さんは、〇〇してしまいました。その時どのような気持ち? その時の表情は?

Point

聴き取った情報を総合的に判断し、正しい行動を学びます。全体を把握する力が育ちます。



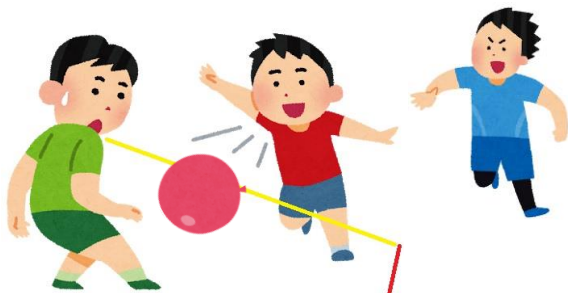
その4-1

少人数によるゲームを行います。順番を待つことや予測を立てながらゲームを進めることを学びます。自分が行った結果を振り返ったり、負けても次へ気持ちを切り替えられる方法を学習したりします。

Point

ゲームは、楽しみながらできて対人関係や社会性を育てることができます。また、ゲームによっては、手先の巧緻性なども育てられます！

「次は僕の番だね」
「〇〇君、上手だね」
「負けた！もう一回やろう！」



その4-2

風船でバレーボールゲームを行います。チームの友達と相談し、作戦を立てながら、協力してゲームを進めることを学びます。失敗してしまった時の言葉かけや喜びを共感し合うことを学びます。

Point

どの様な言い方や行動が、お互いにとって良いのかを学ぶことが大切です！

「うまくいったね！」
「ありがとう！」
「失敗しちゃった。ごめんね」
「ドンマイ！次がんばろう！」

☆切れ目ない支援を目指して

今年度は、3つの事例を通して、それぞれの困難さに対する支援例を紹介してきました。

どの子供も、「友達と楽しく遊びたい」、「楽しく会話をしたい」、「うまくできるようになりたい」といった願いを持っています。そのような本人の思いを周りの大人がしっかりと受け止め、支援することが大切です。そして、本人が「できた」、「わかった」という思いをたくさん経験することで、自己肯定感が高まり、次への意欲へとつながります。

時が経つにつれ、子供たちはどんどん成長していきます。一人一人の困難さが異なり、家庭や園、学校、職場と、周りの環境によって必要とされる社会的スキルも異なりますので、その場に応じてこれまでの支援を引き継いでいくことが大切です。そして、何か苦手なことや問題に直面した時は、周りの大人と一緒に目の中のことを一つずつ克服していき、本人が更に輝く存在になっていくことを願っています。

